

1 月号
VOL. 488

土會奈良



SHIKAI

2016 NARA

表紙のことば

おおやまと おゆみはじのさい
大和神社 御弓始祭



大和神社（天理市新泉町）で毎年1月4日午後新しい年の邪悪を払い平穏と五穀豊穡を願って 鎌倉時代の装束を付けた 宮司に続いて 前弓の女性5人と後弓の男性5人と地元中学生らに依る御弓祭が行われる これは弓馬術小笠原流の伝統的な儀式に則り行われ

装束 用いる弓矢や射手等の所作すべて厳格な決まりがある。古来武家において正月4日の弓始の時に限って、行われ厳格な弓の儀式三々九手挟式が披露される。射筈の上で順に弓を引く。風折烏帽子を被り 小刀を帯し浅沓を履く所作も大変優美である。的的中すれば参詣者から拍手や歓声が上がリ、的奉行は「当たり～」と声を上げる。的中得た射手だけが数塚に的中を示す数串を立てる事が許される。

*大和神社は遣唐使が出発に際して旅の安全を祈願し唐との交易の繁盛や学問の上達を願ったと云う古社の由緒ある神社ですすべての恵みと育み守る交通安全、商売繁盛、学業成就の神様と慕われている。今から2000年前に創建された日本最古の神社。

（写真・文 提供 出原 眞）

情報・広報委員会

委員長 松尾 憲治

副委員長 田上 圭吾 折目 貴司

委員 乾井 哲 水守 寛敏
鵜山 治 大倉 克之
小松原寛俊 嶋山 泰正
福西 保夫 福本 保治
藤井 靖彦 宮浦 重彦

Contents

001

「新年のご挨拶」

004

年賀広告

「参与会」

005

年賀広告

「役員有志」

006

森林技術センター

第5回「家と木材とシロアリの話」

008

「第58回建築士会全国大会「石川大会」

レポート」

012

「近畿建築祭「近畿アーキテクト」を

開催しました」

013

桜井支部

「姫路 書写山円教寺・姫路城 研修会」

014

生駒支部

あかりセミナー「快適生活にあかりの技あり」

015

青年委員会

「三重県・奈良県建築士会青年委員会

合同見学会」

016

教育・女性・青年委員会

「三委員会合同見学会報告「岡山～鳥取」

017

お知らせ

「平成28年新年大交歓会」他



新年のご挨拶



年 頭 所 感

(一社)奈良県建築士会

会 長 渚 上 徳 光

新年あけましておめでとうございます。

建築士会の皆様におかれましては健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。さて、本年の1月から国内に住む全ての人に12桁の番号を割り振るマイナンバー制度が本格運用されます。制度の根幹は国民の社会保障と税、災害対策の分野での利用を始め、利便性を高めて信頼感を得るというのですが、個人情報流出しないかと逆に不信感を抱かれている方もいらっしゃるようです。

不信感といえば、昨年発覚したマンションの杭打ちデータの改ざん問題がありますが品質管理の強化、失われてしまった信頼感の回復に、より一層の努力が必要になってきます。

身近なところに目を向ければ私たちが住む街の中に空き家が目立ち始めています。地域によっては現在7戸に1戸の割合で存在し、2030年には3戸に1戸は空き家になってしまうという驚愕の統計予想も聞かれます。様々な理由があるでしょうが住民の高齢化が進み、子や孫が同居しなくなり住人が消えて家だ

けが取り残された結果なのでしょう。これらの問題も只々行政に委ねるだけでなく私たち建築士も真摯に取り組まねばならない課題の一つです。

そして、昨年は異常気象と騒がれ世界的にも大規模な被害をもたらし、日本においては府県や市町村の境界を越えたボーダレスの被害があちこちで見受けられました。昨年に引き続き防災、減災、そして復旧、復興と取り組まなければならない課題が山積みです。私たち建築士会はこの様な様々な課題と正面から向き合い懸命に努力を続けています。

又、本会の事業面では第17回景観デザイン賞（名称が変更されるかもしれません）の募集、審査、表彰を行います。素晴らしい建築を見出し表彰することで建築の専門家のみならず、一般市民の方々にも建物、まちなみとは何かを考えて頂くきっかけとなれば幸いです。そして昨年に引き続き、歴史的建造物の保全、活用に携わる専門家として育成されたヘリテージマネージャーの活動も実施致します。

また、多様な分野における建築士ならではの技能の研鑽はもとより、その人間性をも含めた資質を高めていくと共に行政や各種団体ともさらに連携協働し、建築士の職能を活かした社会貢献に努めていきたいと考えます。本年も私たちは建築業界の更なる発展を目指し、皆様と共に日々努力を重ねていきたいと思っています。

変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い致しまして年頭のご挨拶とさせていただきます。



平成28年

新年ごあいさつ

奈良県知事

荒 井 正 吾

奈良県建築士会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。平成28年の年頭にあたり、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年4月の知事選挙におきまして、2期8年の県政運営に多くの県民の皆さまの評価をいただき、引き続き県政推進の重責を担わせていただくことになりました。本年も、「住んでよし」「働いてよし」「訪れてよし」の奈良県の実現に向け、県と市町村との連携・協働による県勢発展のための「奈良モデル」を推進し、本県独自の地方創生の実現に取り組んでいきたいと思っております。すべての県民の皆さまが、健やかで安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。そのため、地域の医療提供体制をさらに充実させます。南奈良医療総合センターが本年4月にオープンするほか、県立医科大学附属病院E病棟、県総合医療センターが順次完成する運びとなっています。

健康や福祉の分野では、まほろば健康パークや健康ステーション（橿原市、王寺町に設置）が大変好評ですので、これらを

拠点として健康寿命を着実に延ばすことや、医療・介護・生活支援サービス等を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築などに取り組みます。また、道路、駅前広場、病院を一体的に整備するなど、暮らしやすくにぎわいのあるまちづくりに市町村と連携・協働して取り組みます。南部地域・東部地域では「紀伊半島大水害からの復旧・復興」から「地域振興」へとステージを移し、「頻繁に訪れてもらえる地域、住み続けられる地域」を目指します。

次に、奈良の豊かな歴史・文化・自然は、世界的に見てもユニークなものです。奈良の資源を活用して奈良訪問リピーターの増加を図ります。

1月末には平城宮跡で「大立山まつり」を初めて開催するほか、本年も奈良公園などで「ムジークフェストなら」や「奈良県大芸術祭」を開催します。首都圏や海外への観光プロモーションなどにも積極的に取り組み、たくさんの観光客で賑わう奈良をつくっていきます。

また、県営プール跡地にホテルを核としたにぎわいの空間の整備を進めるほか、「奈良県猿沢イン」での外国人観光客のおもてなし向上を図るなど、観光地奈良の玄関口とも言える大宮通り周辺をグレードアップする様々な取組を進めます。

これからも、県民の皆さまのご意見やご提案にしっかり耳を傾け、皆さまとともにより良い奈良の未来を築いていきたいと考えております。

皆さまの一層のお力添えを心からお願い申し上げます。新年の挨拶といたします。



新年ご挨拶

奈良市長

仲川 げん

あけましておめでとうございます。

奈良県建築士会会員の皆さまにおかれましては、清々しい初春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年、本市では地方創生への取組といたしまして「女性が輝くまち」「観光がうるおすまち」を重点目標とする「奈良市ひと・まち・しごと創生総合戦略」を策定し、子育て環境の充実、観光の活性化、高齢者の健康長寿を基本目標としたところでございます。

特に「健康長寿」への取組につきましては、高齢者がお持ちの豊富な経験を生かし地域の担い手となっていただくことで生きがいを持っていただき、ご本人、ご家族、そして医療費の負担も少なくなる「三方良し」の施策をめざすものでございます。

また、本年は、日本・中国・韓国の三か国が都市間交流・文化交流によって相互理解をめざす国家的プロジェクト「東アジア文化都市」の開催都市として本市が選ばれており、本市の魅力を世界に発信できる絶好の機会となる年でもございます。



新年のご挨拶

檀原市長

森下 豊

平成二十八年の年頭にあたり、奈良県建築士会の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は本市の建築行政にご支援・ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

近年、過去に例を見ない想定外の自然災害が非常に多く発生しており、今後誰もが安全な環境で、安心して暮らせる安全・安心なまちづくりの実現に向けて、邁進していかなければなりません。特に本市では、近いうちに発生が予想されている南海・東南海地震に対し、阪神・淡路大震災のような大惨事を繰り返すことなく、人命・財産の被害を最小限とする為、住宅の耐震診断・改修を進めています。

木造住宅の耐震性の向上は、地震防災上の最も重要な課題の

本市が「住みたい」「訪れたい」と思っただけの「選ばれるまち」となるために、本年も昨年以上に力を注いでまいります。

その「選ばれるまち」となるための取組のひとつとして、本市に住んでおられる市民の生命、財産を守り、観光や仕事で本市を訪れる人が、安全で安心できるような「災害に強いまちづくり」を進めていきたいと考えております。

今後、必ず起こると言われている南海トラフ海溝型巨大地震や、大規模な地震の発生に備え、住宅をはじめ、病院、店舗、旅館等の不特定多数の人が利用する大規模な建物や学校、保育所等の避難弱者が利用する大規模な建物を中心に、建物の耐震化を促進することを目的として、本年四月には奈良市耐震改修促進計画の改定をおこなうなど、今まで以上に災害に強い、安全で安心できるまちづくりをめざします。

そのためには、奈良県建築士会の会員の皆さまの協力が不可欠です。

会員の皆さまにおかれましては、建築物の耐震診断、耐震改修設計や施工管理等におきまして、お持ちの専門分野の知識や技術を存分に発揮していただき、ご尽力をいただけますように、お願いいたします。

どうぞ、本年も本市の市政になお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまにとりまして、新しい年が幸多き素晴らしい一年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ひとつであり、社会ニーズでもあります。耐震診断の必要性を市民の皆様にも広く知って頂き、木造住宅の耐震改修計画・改修工事の事業に対する普及啓発を粘り強く働きかけ、既存建築物の質の向上に努め、耐震化の促進を図っていかなければならないと考えています。

建築行政におきましては、昨年、建築基準法及び建築士法の改正が行われました。今回の改正では、合理的かつ実効性の高い確認検査制度を構築するため、構造計算適合性判定制度の見直しや仮使用制度の見直し・民間開放など、手続きの円滑化が図られており、奈良県建築士会の皆様におかれましても、引き続きスムーズな法改正移行にご協力をお願いします。

また、横浜市の分譲マンションにおける基礎杭に関する問題は、日本の建築界全体に対する信頼を根底から揺るがす大きな問題であり、この失われた信頼を一日でも早く回復し、建築物の安全性を確保することが、行政の最重要課題であると認識しています。

貴会におかれましては、これからも建築設計や工事監理業務、また耐震診断・改修設計など専門分野の高度な技術で地域社会の健全な発展にお力添えをいただくとともに、本市政になお一層の、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、奈良県建築士会のますますのご発展をお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭挨拶

生駒市長
小 紫 雅 史
むらさき まさ し

あけましておめでとうございます。旧年中は本市行政にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市におきましては、これまで、子育て支援施策や教育環境の整備をはじめ、健康・福祉・医療に関する施策の実施、都市基盤の整備や地球規模で取り組むべき環境問題への対応など、本市の発展に必要となる施策について、積極的に取組を進めてまいりました。

その結果、東洋経済新報社が昨年実施されました「住みよさランキング」において、関西3位・全国27位という高い評価をいただいております。

また、昨年は、生駒市立病院や生駒北スポーツセンターがオープンしたほか、常設の子育てサロン「みっきランド」がリニューアルし、広く、より利用しやすくなるなど、明るい話題が

続きました。

さらに、教育面においては、教育委員会委員の増員や公募の導入、市民の皆様のご意見を教育大綱に反映させるための「たけまるワークショップ」の開催など、社会で活躍できる人材を育てるための取組が大きく進展した1年となりました。

しかしながら、課題も少なくありません。高齢者の増加等により扶助費などの社会保障関係費は増加の一途をたどっており、本市の財政も決して楽観できない状況にあります。また、市立病院運営のさらなる充実、高山第二工区のあり方、女性の活躍促進なども重要課題です。

このような中、本年は、私が市長に就任し2年目の年となります。これまでの本市の先進的な取組をさらに発展させるとともに、改革の意識も忘れずに、市民との協創に基づき、人口の定着、流入促進や、地元が賑わうまちづくりを進めてまいります。

私は常々「まちづくりはひとづくり」と考えています。まちづくりの中心は“ひと”であり、“ひとづくり”こそが“まちづくり”の基本であるという意識を持ち、市民の皆様との連携を強化して、「日本一楽しく住みやすいまち、いこま」の実現に向け、本年も職員とともに一丸となって全力を尽くしてまいります。

引き続き皆様のお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。私の年頭の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

奈良県県土マネジメント部
まちづくり推進局建築課長

羽 山 宏

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

奈良県建築士会の皆様におかれましては、日頃から本県の建築行政にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、東洋ゴム工業(株)による免震偽装問題や旭化成建材(株)等によるくい施工データ流用問題が発覚し、県民の建築物の安全性に対する信頼が揺らぐこととなりました。10年前の構造計算偽装問題に続き、建築業界からこのような問題が起こったことは非常に残念なことだと考えています。今後、国土交通省が設置した第三者委員会において、事件の原因究明が行われ、このような事件が起こらないよう対策が講じられることになると考えていますが、建築に携わる者一人一人が、日頃からしっかりとした意識を持ち業務

に励んでいくことが重要だと思います。

また、現在、県では住宅・建築物の耐震診断及び耐震改修の促進に係る施策の基本となる「奈良県耐震改修促進計画」の改定を行っています。耐震化の促進のためには、まず、住宅・建築物の所有者等が自らの問題として取り組むことが不可欠ですが、こうした所有者等の取り組みをできる限り支援し、地震に対する安全性の向上が図れるよう努めてまいります。

さらに、平成27年度は奈良県建築士会をはじめとした県内の建築関係団体と各特定行政庁で構成する「なら建築物安全安心推進協議会」において「奈良県建築安全安心マネジメント計画」の改定作業を行っているところです。県民の生活・事業活動の基盤となる建築物の安全性を確保するため、平成31年度までを実施期間として官民協働で推進すべき施策や目標値を具体的に示すものです。改定しましたマネジメント計画の推進にも引き続きご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、奈良県建築士会のますますのご発展をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

謹賀新年

(一社)奈良県建築士会参与会々員

(株) 浅沼組 (奈良営業所) 奈良市三条本町4-32 中室ビル ☎0742-26-5225 大西宏次	大倭殖産(株) 奈良市藤ノ木台1-2-15 ☎0742-43-9191 矢追盛賢	(株) 奥村組 (奈良支店) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-5001 朝日務	(株) 尾田組 奈良市高畑町738-2 ☎0742-26-6011 尾田芳信
(株)鍛冶田工務店 (奈良本社) 御所市150-3 ☎0745-65-2131 鍛冶田八彦	(株) 崎山組 橿原市南八木町2-3-35 ☎0744-22-2353 嵯山雅由	清水建設(株) (奈良営業所) 奈良市大宮町7-1-33 奈良センタービル ☎0742-34-1510 前田秀樹	大日本土木(株) (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-3071 高田正晃
(株)中和コンストラクション 桜井市桜井281-22 ☎0744-42-9313 大浦基嗣	(株) 中尾組 桜井市桜井553-1 ☎0744-42-3567 中尾隆成	中村建設(株) 奈良市三条大路1-1-48 ☎0742-33-1001 中村光良	(株)平成建設 橿原市曽我町352-4 ☎0744-22-3800 吉崎雅之
(株) 槇峯建設 高市郡高取町丹生谷1061 ☎0745-67-0084 槇峯豊美	松塚建設(株) 宇陀市榛原福地610-1 ☎0745-82-1371 松塚幾善	村本建設(株) 北葛城郡広陵町平尾11-1 ☎0745-55-1151 市岡武	(株) 森下組 吉野郡大淀町檜垣本1589 ☎0747-52-3535 森下秀城
(株) 山上組 奈良市鳥見町1-1-3 ☎0742-44-0063 山上武宏			

明けましておめでとうございます

役員有志

井上建築工房アルス
大和郡山市北郡山町158-6
大和第3ビル204
0743-51-0286

井 上 慶 治

今 西 工 務 店
宇陀郡曽爾村大字掛254番地
0745-94-2588

今 西 清 秀

坂下建築設計事務所
天理市三島町167
0743-62-0306

坂 下 恭 浩

(株)城田建築設計事務所
奈良市佐紀町1番地
0742-33-5585

城 田 全 康

(株)中 和 設 計
橿原市今井町2-1-14
0744-25-5356

中 谷 芳 一

(株)梶 谷 設 計
奈良市西ノ京町101-1
0742-34-1461

中 元 綱 一

(株)福 本 設 計
奈良市大宮町6-4-21
0742-34-2800

西 峯 隆 司

(株)福 本 設 計
奈良市大宮町6-4-21
0742-34-2800

福 本 良 平

測 上 設 計
奈良市秋篠町765
0742-47-4100

測 上 徳 光

エ ム タ ッ ク
桜井市浅古903
0744-45-1097

松 尾 憲 治

松 塚 建 設 (株)
宇陀市榛原福地610-1
0745-82-1371

松 塚 幾 善

(株)モ リ タ 設 計
桜井市大字上之宮412-1
0744-45-2314

森 田 恭 司



木材の特長と色々な使い方

第5回 家と木材とシロアリの話

奈良県森林技術センター 増田勝則

1. はじめに

木材に生じる劣化のうち、生物が原因で起こるものを「生物劣化」と呼びます。腐朽は木材腐朽菌、蟻害はシロアリの食害によって起こされ、この2つは生物劣化の2大巨頭です。親水性の有機物であるセルロースとヘミセルロース、これにリグニンを加えた複合物質からなる繊維状多孔質構造物であることが木材の多くの長所や短所の素因となっています。そしてこの長所と短所は表裏一体の関係にあります。今回は木材をエサとし住処とする動物のうちの代表選手といえるシロアリについて説明します。木材を建築物に利用する上での基礎知識に加えるとともに、防除（予防と駆除）対策にも役立てていただきたいと思います。

2. 生態

シロアリはアリの仲間ではなく、ゴキブリに近縁の昆虫です。日本に生息するシロアリのうち、分布範囲が広く、木材に大きな被害を与える重要な種はヤマトシロアリとイエシロアリです。以降ここで単にシロアリと記すときはこの両種を指します。このうち、ヤマトシロアリは北海道の一部を除く日本全土に生息します。イエシロアリは房総半島以西以南の沿岸部に分布し、北限は1月の平均気温4℃の等温線に位置すると言われています。奈良県に生息する



図1 写真左：ヤマトシロアリの兵蟻 写真右：職蟻と有翅虫

のはヤマトシロアリです。両種はともに大きな階級社会を形成する社会性昆虫で、女王夫妻を中心に、職蟻、兵蟻、羽アリなどの階級が集団（コロニーといいます）を形成し役割分担を行い生活しています。図1にヤマトシロアリの兵蟻、職蟻、有翅虫（羽アリ）の写真を示します。このうち木材を食べるのは職蟻です。シロアリ防除に最も有効なポイントは早期発見です。以下に早期発見のポイントを示します。

3. 営巣場所

イエシロアリやヤマトシロアリは地下シロアリと呼ばれ、自然界ではエサとなる枯れ木や樹勢の弱った木の中、あるいはその根元の地中に営巣し、そこからさらにエサを求めて他のエサ場まで地中を移動します。シロアリは家の中にも巣を作ります。ヤマトシロアリは、湿った木材しか食べ

ることができないので、家の中では、台所、風呂場など、いわゆる水回りにおいて常に濡れているような木材を食べます。そのため床下を含め、比較的低い場所の木材が被害を受けます。ただし、雨漏り等があれば高い場所でも被害を受けることがあります。一方、イエシロアリは水を運ぶ能力があるといわれており、やや乾いた木材でも食害対象になります。よって、屋根裏のような高い場所にある木材でも食害されます。

これらの活動はすべて木の中、土の中、壁の中で行われ、後述する群飛の時期を除けば、両者とも外界に姿を現すことはありません。県内の古い民家の台所の茶箆筒からヤマトシロアリが出てきた例がありました。床下から床板まで食害が進み、その上に茶箆筒が置かれていたのです。このように毎日使う茶箆筒でさえ、食害に気づかないこともあります。しかし、家屋の床下とその外回り、そして庭に目を凝らしてみてください。手がかりは比較的簡単に見つかります。

4. 蟻道と食害形態

シロアリは地中や地上で移動する際、蟻道と呼ばれる、自分の排出物や土砂、食害木片などを吐液で練り、トンネル状に加工した構造物を利用します。図2はこの蟻道を使って家に侵入したと思われる例と崩した蟻道の中から職蟻が出てきたところです。このように蟻道は特徴的で見つけやすく、シロアリ発見の有力な手がかりです。



図2 写真左：地面から土台に上がってきた蟻道（図中矢印）
写真右：蟻道の中にいた職蟻

食害された後の木材にも特徴的な痕跡があります。シロアリは晩材部分を食べ残すため、晩材が薄く膜状に残ります（図3）。また、心材に耐蟻成分が多く含まれる樹種では辺材部の早材だけを食べて心材を残します。庭を見渡し、幹や枝に崩れた部分がある庭木や積まれたままの木材を裏返して見てください。家の中では、まず床下の木材、次に水回りにある木材を手やドライバーで押してみてください。すぐにへこんだり、崩れて、上記のような状態が現れたならそれはシロアリの食害痕で、中から出てくる可能性も高いです。



図3 早材を食べ晩材を残した
食害痕



図4 羽を落としたヤマトシロアリ
の羽アリ。この状態だと確かにゴ
キブリに似ている。

5. 群飛

コロニーの中では、春から夏のある時期になるとニンフと呼ばれる階級の個体群が羽アリとなり、巣の中から出てきて一斉に飛び立ちます。図1の右の写真はまさに飛び立つ前のものです。この行動を群飛と呼び、ヤマトシロアリでは4月から5月の日中に、イエシロアリでは6月から7月の夕暮れから夜にかけて行われます。群飛はシロアリ発見の好機です。住むのに適した場所で、幸運に出会えたメスとオスは、新しい女王と王になって、新たなコロニーを作ります。羽アリは住む場所に着くと羽を落とします。その状態を虫眼鏡で確認してください。シロアリの触角は数珠状、頭、胸、腹の間にくびれはなく寸胴です（図4）。

6. 木材の含水率とシロアリ

多くの場合、シロアリは家屋内では水回りや雨漏り箇所など、常時水が供給され易い場所の木材を食害します。木材の湿り具合の好みについては以下のような実験¹⁾があります。5～10%（低）、80～100%（中）、140～180%（高）の含水率に調整した木材を食べさせたところ、イエシロアリは（中）含水率の木材を最も多く、ヤマトシロアリは（中）（高）含水率材ともに多く摂食しましたが、（高）含水率材をより多く摂食しました。一方、（低）含水率の木材は両シロアリとも摂食量が少なかった、ということです。この結果から、ヤマトシロアリのほうが木材含水率の好みの幅が広く、より高い含水率の木材を好むということ、シロアリの被害を軽減するには木材を乾燥した条件に保つことが重要だということが分かります。

7. どこからくるか

野外ではシロアリは、営巣場所から地中に蟻道をはりめぐらせて、エサとなる他の木材を探し回ります。この習性のため、私たちの家にも彼らは主に地面、床下からやって来ます。多くは蟻道を構築しながら、束石から床束を経て大引へ、あるいは布基礎から土台へと侵入し、他の構造部、

根太、柱等を食害していきます（図5）。また、堂々とポーチを通じて玄関からというのもよくある進入路です。さらに、羽アリが2階のバルコニーに飛来し、雨じまいの悪さから常に木材が濡れていたためにその場で繁殖した例も報告されています。同様に水分の供給があれば、小屋組などの屋根の構造材であっても食害されます。

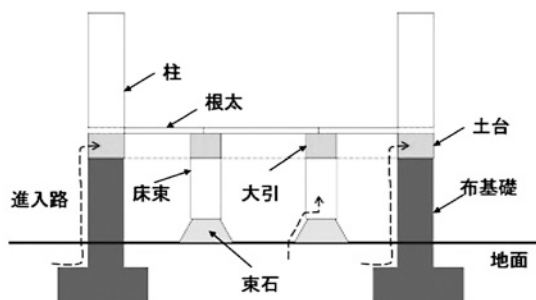


図5 シロアリの床下からの進入路（図中点線）。

8. 防除の方法

ここでは代表的な3つの防除法に絞って紹介します。薬剤による土壌処理と、木材への薬剤処理およびベイト工法です。土壌処理は薬剤を床下や建物周囲の土壌やコンクリートに散布する防除法です。薬剤の加圧注入処理や塗布、吹き付け等の表面処理は、床の構造物等、地面に近い部分に施工される木材に対して、予防の目的で行います。一方、既に食害中のシロアリに対し、駆除を目的とする場合は、木材表面への薬剤塗布、吹き付けの他、材面に穿孔し、そこからノズルで薬剤を注入する方法が採られます。これらの方法は薬剤にシロアリが接触あるいは近づけば有効な方法ですが、比較的多くの薬剤を使用すること、巣本体を見つけて処理しない限り別の場所が食害される可能性が残る等の欠点があります。そこで、近年になって多く採用されている防除方法にベイト工法があります。ベイト工法は遅効性の薬剤を混ぜたエサを集まって来た職蟻に食べさせ、その職蟻が巣に帰って一度体内に取り込んだエサを他のシロアリに分け与える習性を利用して駆除する方法です。この習性により薬剤はコロニー内のシロアリ全体に広がっていきます。給餌されなくなった兵蟻や女王や王も餓死するため、コロニーは壊滅します。薬剤も少量ですみますが、効果が現れるまでには時間がかかります。活動の盛んな時期のイエシロアリで1～3ヶ月程度、ヤマトシロアリではさらに期間を要する傾向にあります。

1) 中山友栄：木材含水率とシロアリの摂食活性との関係、木材工業、60(8)、388-391（2005）



第58回建築士会全国大会「石川大会」レポート

第58回建築士会全国大会「石川大会」が加賀百万石の歴史と文化を今に受け継ぎ、数々の伝統工芸、伝統芸能や生活文化を守り育て、旧来の伝統を継承するだけでなく、時代の要求を取り入れ、進化しつつある、石川県の金沢市の県立音楽堂で催されました。テーマは

「百万石の地で触れよう 未来をつなぐ まちづくり」



まず、式典前に、前金沢市長・山出保氏の記念講演です。加賀藩初代藩主前田利家公が、金沢に入り築城を始めたのが1583年、藩政は280年続きました。その間どの藩主も戦いを避け、学問と美術工芸に力を注ぎました。明治維新以降150年、第二次世界大戦では、金沢に爆弾が落ちなく、築城から430年、一度も戦火に遭った事のない平和都市です。世界中でも戦争体験のない都市は金沢市とチューリッヒのみ、との事です。この戦火に遭わなかった金沢だからこそ、「保存と開発」、「伝統と確信」という二律背反する命題の調和に取り組む事が、まさに宿命だといえます。氏はこれらの経緯と事情を背景に、金沢のまちづくり、文化と産業についてパワーポイントで掲示画面を示しながら、話され



ました。非常に興味深く拝聴致しました。

午後3時、コンサートホールに据えられたパイプオルガンからのバッハ「トッカータとフーガ」の調べで大会式典の始まりです。

石川県建築士会副会長の田尻フミエ氏の開会宣言、国歌斉唱・物故者追悼・建築士会綱領朗読に続き、主管県会長・石川県建築士会会長 照田繁隆氏の挨拶、次に主催者である日本建築士会連合会会長 三井所清典氏の挨拶と続きました。

表彰式では①功労者連合会会長表彰 ②伝統的技能社表彰 ③連合会賞 ④実践活動表彰 が行われ、我が奈良県建築士会から3名が表彰されました。

次に来賓祝辞があり、①国土交通大臣・石井敬一氏の挨拶を代理の杉藤担当官から ②石川県知事 ③金沢市長 ④大韓建築士協会会長の挨拶がありました。続いて来賓の紹介・祝電披露がありました。

式典も後半に入り、石川県建築士会会長 照田繁隆氏・日本建築士会連合会副会長 岡本森廣氏とで、「大会宣言の朗読」。

最後に次回開催の第59回建築士会全国大会「大分大会」大分県建築士会への大会旗の引き継ぎが行われ（石川士会⇒連合会⇒大分士会）、次期開催地・公益社団法人 大分県建築士会会長 井上正文氏のご挨拶。

石川県建築士会副会長の閉会の挨拶で式典は終了しました。式典後は奈良県建築士会会員での懇親会が盛会に行われました。



（記・桜井支部 松尾憲治）

平成27年度 日本建築士会連合会会長表彰・伝統的技能者表彰

—第58回建築士会全国大会石川大会にて—

平成27年度日本建築士会連合会会長表彰、伝統的技能者表彰が行われ、奈良県建築士会より会長表彰を奥村利文様（天理支部）、吉田輝滋様（高田支部）、技能者表彰を今西清秀様（宇陀支部）がそれぞれ受賞されました。当日受賞式にご参加されたおふたかたよりコメントをご寄稿頂きましたので掲載いたします。

■天理支部 奥村利文さんより

このたびは日本建築士会連合会会長表彰を受賞し、光栄の至りに存じます。賞を頂いた事に素直に喜び感謝しています。本当に有難うございました。

聞くとところによると、この表彰は、長年建築士会の活動と発展に貢献された方に与えられるとの事です。

私の士会活動をふり返ると、建築士会に入会してはや39年経ちますが、最初の17年間は名前だけの会員で「士会奈良」も封を開けず積み上げた時期もありました。そしてひょんなことから平成6年に支部長から編集委員会に所属してほしいと頼まれ、素直に了承しましたが、想像以上の忙しさとハイレベルにアップアップしていたのを思い出します。自分なりに与えられた仕事を黙々とこなして、何とか10年間務めました。今度は支部長職と制度特別委員会委員長の兼務、「まあ一何とかなるだろう！」との思いで務めました。そしてその間、副会長職を1期務めました。三つの兼務はさすがに大変でした。しかし、幸い会員の皆様に協力を賜り、務められたことに感謝しています。また未熟な私を今日まで御指導頂き、育てて頂いた諸先輩の方々に感謝しています。おかげさまで士会での発言・行動に際して「是是非非」で貫く事が出来た様に思います。現在は支部長職を後任に譲り、士会に新しい風を送り込んでいます。こうした事から少しは建築士会に貢献できたのかなーと思っておりますが？…。また今回の受賞に際し、私を推薦して頂いた理事の方々に重ねてお礼申し上げます。

まだ重責の制度特別委員会委員長の職がありますので、これからも驕ることなく、受賞の重みを受け止め、身を引き締めて士会発展のために微力ではありますが動かさせて戴く所存ですので、皆様方の温かいご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

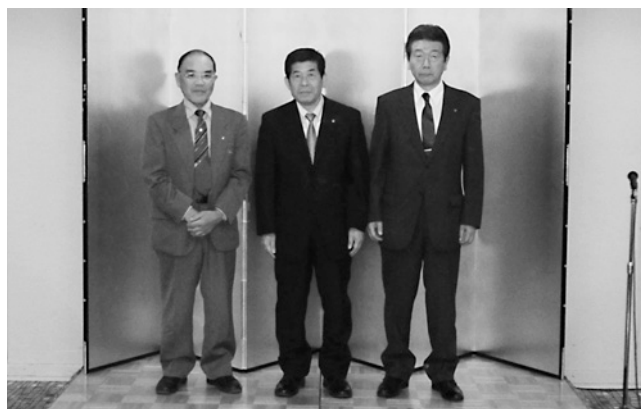
■宇陀支部 今西清秀さんより

この度、第58回建築士会全国大会に、伝統的技能者表彰という、名誉な賞を私のような者に、頂けることになるなんて誠に嬉しく、回りの多くの方々はもちろん建築士会の皆さんに支えられた自分だったのだと、今さらに実感させられています。ありがとうございました。

中学校卒業以来父の足下に習い気が付けば、49年の大工職人として生かされてきました。建築士としても、独学で学んだ道42年間だった事に嬉しさと涙が出ます。士会の活動には消極的な方でも多年に渡り宇陀支部のお役目を授かり、宇陀支部長にまで引き上げてもらい多くの会員さんに仲間入りさせてもらい、井の中の蛙も大海に出た思いでした。

仕事面では、日本の経済にも波があり、良い時もあったけど、今は大変努力のいる時期のようです。

多くは、木造建築の施工が中心だったので多くの手形が残っていて嬉しいです。今後も自分にできる仕事を探して、日本建築の良さを残したいと考えています。



左 今西氏 右 奥村氏

飛騨高山を訪ねて

榎原支部様企画により、榎原・桜井・宇陀支部の有志13名でバス1台により全国大会に参加しました。

初日午前7時に榎原神宮前駅を出発し、八木駅前では私たちは乗車しました。中型のサロンカーでしたので室内はとても広くて快適でした。朝の渋滞もあって北陸自動車道に入るのに時間が掛かりましたので、当初予定していた金沢市内の「ひがし茶屋街」へは時間の都合で見学出来ませんでした。

翌日私達は全国大会のエキスカージンコースと同じルートで白川郷と飛騨高山へ伺いました。午前8時にバスに乗り込みました。最初に白川郷に着く手前の高台に降り立ちました。この高台から見下ろすと、白川郷全体の景観が見られ、晩秋の紅葉が始まっているのが一望できました。里に降り川を渡りますと、世界遺産白川郷合掌造りの集落が広がってきました。厚さ40センチ程の茅葺きの屋根が郷土の景色に存在感を与えてくれました。重要文化財の名善寺郷土館に見学させていただきました。庫裡から入場し階段を上って2階、3階に着くと、蚕の養殖の道具が展示さ



れていました。内部は少し煙が漂っていました。1階の囲炉裏で炭が炊かれていました。これを行うことによって、蚕の養殖の温度調整と、何より茅葺き屋根の寿命が長く保たれる為だそうです。余りゆっくりと見学していたのでお土産を買いそびれてしまい、次の目的地に出発しました。



一路東海北陸自動車道を飛騨高山に向かって走行していると、周りの景色が一面紅葉していてとても綺麗でした。高山に到着すると、1時間程度の自由散策時間がありました。古い町並みに向かうと観光客で大変な賑わいで通りを歩くのが大変でした。土産物屋さんや酒蔵が沢山あり、酒好きのわたしとしては、真っ先に酒蔵へ入場しました。ざっと数えただけで通りに4件、どの蔵に入ろうかなと迷いました。案の定、中は満員……買う物を早く決め、レジに並びましたが長蛇の列、ゆっくりと見学ができませんでした。奈良の街並みもこれくらい賑やかであってほしいなとつくづく思いました。

昼食はバイキングでお腹いっぱいになり、その後飛騨のお土産を買い一路帰宅のバスに乗りました。久しぶりのバスの旅でした。

榎原支部の企画で参加させていただきありがとうございました。

(記・宇陀支部 小松原寛俊)

全国大会

第3回全国ヘリテージマネージャー大会レポート

今回は「ヘリテージマネージャーと職人との連携による伝統建築の保全と文化の継承」をテーマに、開催地である石川県の取り組み・活動に学び、関連する各地の取り組みを報告することにより、伝統建築文化をいかに保全し継承していくか、ヘリテージマネージャーの役割、職人との連携について議論を深める主旨で行われた。

報告は5事例始めに「金沢職人大学校による伝統建築の保全」と題して、石川県建築士会の武藤清秀氏が報告された。大学校は平成8年8月設立、本科は「つくる技術」として職歴10年以上の職人を対象に3年間研修し、金沢匠の技能士に、また平成11年から発足した修復専攻科では「伝える技術」として本科修了生や設計士等対象に、無償で3年間研修し、歴史的建造物修復士に夫々金沢市が認定し、伝統建築の保全に寄与していることを報告。

次に同県まちづくり員会小林吉則氏が「能登地震時の建築士と職人との連携」を題に、地震により傷ついた土蔵の修復を職人と建築士の連携により対応することで、「蔵を活かしたまちづくり」として活性化できたことを報告した。

3番目の事例は宮崎県建築士会の松下宏氏が文化遺産を活かした地域活性化事業の中で「匠のわざを学ぼう「職人塾」シリーズ講演会」を企画したことを報告。4番目の事例は神奈川県建築士会池田誠之氏が「職人によるヘリテージマネージャー講座の実施」と題して、ヘリテージマネージャーと職人との協働連携による歴史的建造物の保全活用を報告。5番目の事例は静岡県建築士会塩見寛氏が「職人組合との協定書の締結」と題して歴史的建造物の維持・保全・活用に関する協定書を締結、平時だけでなく地震などの非常時での対応について協力関係を共有化していくことを目的としていることを報告された。

質疑応答では、職人さんと連携に至った経緯や繋がり方について質問がでていた。またこの大会は建築士のための大会にせず、関連する方々も参加できる大会にしてみたいと要望が出ていた。

今回の大会は、歴史的建造物を建築士だけで考えるのではなく、その建造物に携わる様々な人との協働によって保全活用をすすめていくことも重要なことであると感じた。

(記・榎原支部 紀本澄男)

「全国建築士フォーラム in 石川」に参加しました

10月29日(木) 全国大会石川大会前日の夜に行われた「全国建築士フォーラム in 石川」に参加しました。

第6回を迎える今回は、「あつまれ！青年建築士～魅力ある未来社会につなぐ地域実践活動～」と題して、全国7ブロックの青年大会等にて選出された事例を紹介します。

建築士会の求められる公益性に対する基幹事業のひとつとして全国の地域実践活動があげられます。日頃の成果発表とともに座談会形式で発表者と参加者が語らいながら研鑽し、活動のさらなる発展、波及、相互理解などの可能性を探る目的の参加型発表会です。

賛同する活動に投票をして、最優秀賞(最多獲得)、優秀賞(次点)を決定し、大会式典内にて表彰されます。

今回の発表者は北から順に、北海道後志、山形県、長野県、愛知県、滋賀県、愛媛県、佐賀県の方々からの発表の後、各道府県ごとの座談会会場に移り詳細の説明を受けたり、質問を行う時間があります。全国各地から選ばれた事業なので各事業の内容も充実しており、事業担当者の説明も関心を持って集まった青年委員の質問にも自然と熱が入ります。奈良県の青年委員も積極的に質問を出し、アイデア、熱意を少しでも単会に持ち帰ろうとする姿は、青年委員長としてとても嬉しく感じました。

厳選なる審査の結果、長野県(関東甲信越ブロック)の「まちづくりの変革に挑む～小諸のまちなみと市民の声～」が最優秀賞に選ばれました。長野県小諸市のまちづくりを士会と大学の協同体制で行う中、専門家の偏見を払拭し市民目線に立ちかえるため、あえて役割を逆転させ「専門家の素人目線」で運営されたのが特徴です。書籍化もされて結果の公表も怠らないのはさすがの一言です。

愛知県(東海北陸ブロック)「君も未来の建築士！体感しよう、力と強さ！」は子供たちが紙の柱で支えた板に何人乗れるか。というゲームから楽しみながら構造を学ぶ事業の発表がありました。使える紙には制限があり、どのような柱にするかは子供の発想にゆだねられます。愛知県の委員長と詳しくお話を伺う中で、12月に事業に行うので見学に来ませんか。とありがたいお誘いをいただきました。有意義な時間になるようしっかり学んできます。全国での活発な活動を目の当たりにして、早速に見学に行ける出会いがある。これこそが全国大会の醍醐味だと強く感じています。

全7ブロックの発表内容は、日本建築士会連合会ホームページの青年委員会ページに投稿されています。ぜひご覧ください。

(記・青年委員会委員長 中谷耕三)





青年委員会

「近畿あーきてくと」を開催しました

2015年10月3日(土)、第23回地域実践活動発表会「近畿あーきてくと」が、高野山大学にて開催されました。近畿建築士会協議会青年部会で平成6年より開催しており、今年で23回目になりました。この発表会は、近畿2府4県の建築士および一般市民や団体等が、ボランティアまたは業務として係わる地域に根差した様々な社会貢献活動の発表の場となっています。そして今年は、高野山開創1200年にあたり、その永きにわたる歴史に光があたっています。今年のテーマは、『継ぎ伝える』です。自身と、これまでの活動を振り返るいい機会ととらえ、新たな一歩を踏み出す機会となる発表会になりました。



今年は2府4県から1組ずつと学生1組の、計7組のみなさまに発表をしていただきました。各発表者から、「継ぎ伝える」というテーマにふさわしい素晴らしい活動報告を聴かせていただきました。奈良県からは、今西酒造(株)代表取締役 今西将之氏に、「酒の神が鎮まる地 奈良・三輪ガイド付き聖地巡盃ツアー」というテーマで発表していただきました。今西氏は地元経済の後退をきっかけに、自身の



職能を生かし、地域経済の活性化を図る活動をされています。その内容は、ガイドとともに大神神社・三輪町を歩き、酒造りの聖地ならではの神と酒、暮らしと酒の深いつながりを体験し、地元にある食事処での食事や土産物屋での買い物を経た後に酒蔵見学などを行います。酒蔵見学では利き酒体験はじめ、利き酒手法・ラベル表示の見方等も蔵人自ら伝授するなど、「地域連携」をしながらサービスレベルの向上を図り、多くの体験者を獲得しているといえます。



また、学生の発表として和歌山工業高等学校の方々に発表して頂きました。今年のテーマである、「継ぎ伝える」というテーマにふさわしく、これからを担う若い皆さまの技術の研鑽や協力して行われた「ものづくり」に関して、素晴らしい報告を聴かせていただきました。

今回の事業は設営までの準備期間が非常に短かったのにもかかわらず、近畿建築士会協議会青年部会の担当委員の方々はじめ、多くの関係者の皆さまのご尽力により、素晴らしい報告会になったと思います。さらに、この報告会は今年で23回目と回数を重ねており、その歴史を感じました。

今後はこれまで以上に、建築と地域との関わりを考えていく機会が必要になってくると思います。各地での活動を広く公表し、存在を広く知らせることでその後の自らの仕事や活動に役に立つ情報につながってくるのではないかと思います。

(記・青年委員会 大川 碧)



桜井支部 姫路城・書写山 研修会

開催日時 平成27年12月5日(土)

6:45~20:00

開催場所 午前 書写山円教寺 ・ 午後 姫路城

晩秋の12月5日桜井支部では、姫路書写山円教寺と姫路城への研修会を開催させて頂きました。今回はいつもより少し早い出発となりましたが総勢18名参加頂きました。桜井を出発したバスは、一路姫路市書写山へ向かいました。書写山円教寺へはロープウェイを4分程度乗り山上駅に到着。駅から山道を歩き仁王門をくぐれば西の比叡山と称される天台宗三大道場の一つ西国27番札所であり康保3年(966)に性空上人によって開かれた、また「この山に登るものは菩提心を起こし、峰に棲むものは六根を浄められる」とされ僧侶の修行の道場としても栄え、境内には多くの重要文化財が現存しており、気のひきしめる思い出で歩いていますと、まず京都の清水寺に似た摩尼殿が、そびえ立っており大きく張り出た舞台の木組みが美しく印象的でした。

摩尼殿
舞台 木組み



さらに奥に歩くと、そこには三つの堂と呼ばれる大講堂、食堂、常行堂の三つの建物がありました。近年、映画ラストサムライ・大河ドラマ・武蔵や軍師官兵衛のロケ地になったそうです。食堂は入母屋造で二階建て正面には高欄が付き桁行十五間の見ごたえのある大建築でした、時間の都合で駆け足の見学となったため改めて訪れてみたいです。

大講堂・食堂



午後からは、姫路城の見学をさせて頂きました。快晴に恵まれ白く輝く大天守はまさに白い鷺が舞い立つようにみえました。大天守の保存修理工事が平成27年3月完了したので大勢の見学者で行列ができていました。



本丸からの大天守（一層目千鳥の鱗は天守入口の目印）

城内の入り口からはボランティアガイドさんに案内して頂きました。ガイドさんのお話の中で印象的だったのは、外部では歴代の城主が修繕の際に変えた瓦紋、輝政から三代続き、現在の姫路城を築城した池田家の家紋は揚羽蝶(写真下中央)で、最後の城主でもあり10代120年間城主を継いだ酒井家は剣酢漿(上中央)、その間入れ替わりを繰り返したのが本多家、松平家(二家ある)、榊原家の四家で、徳川四天王の本多家は三つ葉立葵(下右)、榊原家は源氏車(下左)、松平家が三つ巴(上左)と教えて頂き各所の軒先瓦を見るのが面白かったです。次に天守入口へと進み内部の説明では大天守の各ブロックの建て柱の位置はまちまちで横揺れの弱点を補うための芯柱(高さ24.6m根本直径95cm)が天守中央部の東西に2本地下から6階まで伸び強度を保っていると聞き、軸組の模型と実際の大柱を見て城郭建築の特性を見ることができました。

歴代城主の家紋



今回改めて木造建築の素晴らしさ、また先人の技術力・デザイン力を感じ、勉強させて頂いた研修会でした。

最後に幹事様ご参加頂きました皆様有難うございました。

菱の門を潜って左西の丸より



(記・桜井支部 中川幸一)



生駒支部

第5回 あかりセミナー

『快適生活にあかりの技あり』 報告

生駒支部では、11月28日（土）生駒市図書会館にて、第5回 あかりセミナー『快適生活にあかりの技あり』を開催いたしました。

これまで、生駒支部のあかりセミナーでは、第1・3回は、株式会社大光電機、中尾晋也氏をお招きして学習編と題し照明計画・器具などについて学び、第2回は、照明器具作り編とし、あかり工房吉野の坂本尚世さんによる和紙と檜の単板を使った器具作りを楽しみ、第4回は、造形作家 藤堂敏氏による紙を題材に手を動かして照明器具をつくるイベントを開催してきました。

今回は、第4回開催より6年の年月が経ち照明業界は、LED時代が到来しました。これを機会に新たな「あかり」とのお付き合いの「技」を学べればと生駒支部では再び大光電機、中尾氏にお越しいただきました。



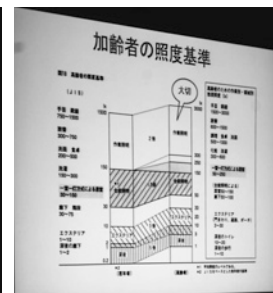
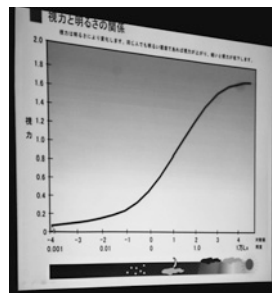
まずは、自然界のお話から。四季の風景、自然界の光はドラマを創りだし、自然の日差しや緑は、人々の心を癒し夕日は心を落ち着かせる。その自然界における虹について我々日本人は7色と思っているが欧米人は5色と思っているらしく欧米人には、橙色や藍色の区別が難しいらしいです。

また、中尾氏が以前、ある老舗百貨店のロゴの色について外国のデザイナーの方と打合せをしていく中でグリーンとブルーの色の感覚にずれが有、論争したことがあったそうです。海外の方とお仕事する時は、お互いの色の認識の違いからスタートするのが賢明かもとの事でした。

この様に、自然界のあかりが我々の心に与える影響や日本人と欧米人のあかりの見え方の違いをお聞きしながらいよいよ我々にとって特に身近な「加齢と視覚」についてのお話です。

人は、同じ人でも明るさが明るければ視力は上がり暗いと視力は低下するとの事です。また、視力のピークは、12、3歳頃でその後は、低下していくとの事。

しかしながら若年者と高齢者のお部屋の全般照明の照度基準は、若年者で30～150 lx に対して、高齢者は50～250 lx の約1.5倍あれば良く、大切なのは、作業照明、要するに本を読んだり調理をしたりする手元のあかりを明るくしてあげる事が大切だということです。また、高齢者は白熱灯のあかりの方が見え易いとの事でした。



私達は、つつい加齢に伴い明るさを優先にしていまいがちで白く明るく照りつけるお部屋の中に高齢者を住まわせてしまっているのではないかとふと思い返してみました。

この様な中、LED照明は日々進歩し発光効率が200 lm/w となれば原子力発電所17基分の削減が可能となるかもとの事です。これからLED照明は、付加価値の時代になっていくようです。

そこで中尾氏はカテゴリーを4つに分け

- ①快適なあかり ②生活のあかり
- ③楽しむあかり ④安心のあかり

についてお話していただき、私は特に④安心のあかりについてのお話が興味深かったです。

日本人の高齢者は、欧米人に比べ認知症の発症率が高いと言われているそうです。その原因の一つに日本人と欧米人のあかりのライフスタイルの違いがあるのではとの事です。日本人は、朝起きて夜寝るまで平均6000K程度の同じ明るさの下で生活するのにに対して欧米人は、朝昼夜と明るさを調整しながら生活をしている。日本人は、夜、強い光を浴びることで体内時計がくるってしまうことが関係しているのではと言われているようです。

そしてまた、メラトニンの分泌を白い光がおさえてしまい本来暗くなるにしたがって分泌されるはずのメラトニンが抑制され睡眠障害などにつながるとも考えられるとの事でした。

望ましいのは、朝、昼間は白い光、夜は電球色ということで白熱灯の様な色温度を調光出来るLED。大光電機では「温調」の出来るLEDダウンライトがあるとの事です。

今回もまた、たくさんの「あかり」についてのお話をお聞きする事が出来、あっという間の1時間半でした。

(記・生駒支部 寺岡春恵)



青年部

「三重県・奈良県建築士会青年委員会合同見学会」 に参加しました

11月8日（日）三重県建築士会青年委員会さんにお招きを頂き伊勢神宮の参拝とおかげ横丁の散策ならびに外宮にあります式年遷宮記念せんぐう館を見学に行きました。

この事業はこれまで数年に渡って三重県と奈良県の青年委員会が交互にホスト役となり、お互いの建築士同士のつながりを深めようと始めた事業となります。

当日は小雨の降る中、伊勢神宮の鳥居の前に集合すると小雨ならではの情緒があり、神秘的な雰囲気の中境内を歩くことが出来ました。

また、今回は特別な参拝形式である「御垣内参拝^{み かきうちさんばい}」と呼ばれる体験をさせていただきました。これは、伊勢神宮の御正殿^{ご しょうでん}を幾重にも囲む玉垣^{たまがき}の中で参拝をすることを御垣内参拝（特別参拝）と言い、式年遷宮への奉賛の寄進をしたことへの、神宮からの返礼としての意味合いがあるそうです。

お祓いの後には神職の案内により一般拝所よりもさらに内側の外玉垣南御門内にて参拝もさせていただき、ふだん着なれないスーツのせいもあり背筋がシャキッと伸びた参拝となりました。

その後、神楽殿にて御神楽を上げさせていただきました。厳粛な雰囲気の中荘厳な雅楽が響き渡り、ふだん見る機会のほとんどない神楽の舞を見て大変感動しました。



〔神楽殿 全景〕

御神楽を見た後は昼食会場へ向かう道中に、おかげ横丁があり昼食前にも関わらず思わずお土産の物色をしながら、試食コーナーに並んでしまうメンバーも。



〔赤福本店〕

昼食をお腹一杯いただいた後は、外宮にある式年遷宮記念せんぐう館の見学に向かいました。ここでは神宮や神宮の式年遷宮の内容が分かりやすく展示されていて、社殿造営や御装束神宝奉製の技術を見学しました。

せんぐう館のメイン展示の神殿造りの構造が再現された、外宮正殿原寸大模型は圧巻でした。歴史的価値の高い建築群とその中で継承される文化と技術の素晴らしさなど、日本人にしか継承できない心意気のようなものを再確認できる一日となりました。



今回の見学会は三重県建築士会青年委員会のメンバーがホスト役として案内いただいたおかげで大変貴重な体験ができました。

来年は奈良県建築士会青年委員会がホスト側として三重県さんをお迎えするべく現在見学先候補を精査している状況であります。今後も三重県建築士会青年委員会さんとは所属地域は違っても、お隣付き合いしあえる関係でありたいなあと思います。



奈良県委員長中谷耕三氏（左） 三重県委員長大渡誠一氏（右）

（記・青年委員会 藤山昭生）



教育・女性・青年委員会 3 委員会合同見学会報告

去る平成27年11月28～29日に教育事業委員会・女性委員会・青年委員会の3委員会による合同見学会を行いました。今回は青年委員会が担当委員会となり24名の参加のもと、岡山～鳥取方面を巡ります。

まずは岡山県のグリーンヒルズ津山リージョンセンターに向かいました。このセンターは1998年に竣工した芸術文化施設です。当日は他の講演会が開催しており詳しく内部の見学はできませんでしたが計画当時の設計者の理想とする周囲の環境との調和がそここに表現されているような建築物でした。

津山リージョンセンターの見学を終え、津山洋学資料館を見学しました。この資料館は「津山洋学五峰（宇田川玄真・箕作阮甫・津田真道・宇田川玄随・宇田川榕菴）」と称される五人の学者をモチーフにして、五角形の形を基本として設計されています。資料館は津山城東町並み保存地区内にあり、江戸時代の街並みが現在にまできれいに保存されていて平成25年8月に国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。

城東地区の見学を終えて、一行は奈義町現代美術館へ向かいました。磯崎新氏の設計による美術館で、作品と建築物が一体となっているような美術館でした。美術館の内部には奈義町立図書館が併設されていて、図書館においても利用者の目線に立った動線計画が計画されていました。

奈義町現代美術館の次は、鳥取県に入り石谷家住宅の見学に向かいます。鳥取県八頭郡智頭町の智頭宿にある近代和風建築で、国の重要文化財に指定されています。石谷家は屋号を「塩屋」と称した近世以来の商家で、明治以降は山林地主として栄えたそうです。それもそのはず、敷地面積は約10,000㎡もあり広大な池泉回遊式日本庭園を中心に配された部屋は40、土蔵は7つもあります。圧倒的な商家のスケールに目を丸くして説明を聞かせていただきました。



2日目は午前9時にホテルを出発し、ホテルの近くに位置する仁風閣の見学に向かいました。仁風閣はフレンチルネッサンス様式の木造西洋館です。中国地方屈指の明治建

築として名高く、1973年6月2日に国の重要文化財に指定されています。また、1907年にのちの大正天皇の山陰行啓時の宿泊施設として経緯もあり、最近では映画のロケ地としても利用されていました。



仁風閣の次は、砂の美術館です。砂の美術館は鳥取砂丘の一角にあり、世界で初めての全天候型の砂像彫刻を展示する全天候型の美術館です。訪れた当日は「砂で世界旅行・ドイツ編」が開催されていて、砂と水だけで作ったとは思えないほどスケールの大きな作品で展示室は埋め尽くされていました。

美術館を出るとそこには雄大な鳥取砂丘がありました。私は初めて鳥取砂丘に来ましたので、降り出した雨もお構いなしに砂丘を歩いてきました。前評判通りすごい起伏の砂丘に足を取られながら歩いていましたので、集合場所に戻ってきたときには足元がフラフラの状態でした。

鳥取砂丘を後にして賀露港にて昼食とお買いものをした後、奈良へ向けて帰路につきました。2日間のハードスケジュールでしたが注目すべき建築をいろいろと見ることができて意義深い見学会になったと思います。

最後になりましたが、参加いただきました会員の方には深く感謝申し上げますと共に今後とも見学会等のご参加をよろしくお願い申し上げます。

（記・青年委員会 藤山昭生）



お知らせ

Information

●入会促進キャンペーンのお知らせ

このたび平成28年3月末までに入会される方に対して入会金相当額を助成する入会促進キャンペーンを開始いたします。今年度の建築士試験合格者だけではなく、すでに建築士として活動されている方も含めて全ての入会対象者に助成いたします。助成金の手続きは特にありません。入会申込書を提出していただく時に入会金を除いて月割り会費だけお支払いいただきます。

会員の皆様から入会対象者の方への積極的なはたらきかけをお願いいたします。(総務企画委員会)

●平成27年度奈良県被災建築物応急危険度判定士

養成講習会(更新及び新規登録) CPD=3単位

開催日時 平成28年1月21日(木)

13:00~16:30(受付12:30~)

会場 奈良県文化会館 小ホール

定員 150名

申込期日 平成28年1月8日(金)まで

※平成27年度奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会はこの開催のみですご注意ください。

※詳細・申込は、チラシ(12月同封済)の用紙をご覧ください。

※会場へはできるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

●平成28年新年大交歓会 ~異業種とつながろう~

本年は例年開催しておりました「新年名刺交換会」から内容を一新して、会員との交流を上げてゆくべく「平成28年新年大交歓会~異業種とつながろう~」と題して開催いたします。異業種として今西酒造(株)今西将之社長の講話を予定しています。

皆様お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ち申し上げます。

1 開催日時 平成28年1月29日(金)

18:30~(受付18:00より)

2 開催場所 奈良国立博物館地下レストラン葉風泰夢

(奈良市登大路町50)

3 参加費 5,000円(当日受付にて)

※1月20日(水)までに事務局までお申し込み頂きますようお願いいたします。

●一級・二級及び木造建築士合格者 見学会及び祝賀会

青年委員会では、今年も建築士試験に合格された方を対象に実施いたします。お知り合いや社員の方に今年度一・二級及び木造建築士試験に合格された方がいらっしゃいましたらご案内頂きますようよろしくお願いいたします。

日時 平成28年1月31日(日)

11:15 近鉄奈良駅 行基像噴水前 に集合

11:30~15:50 各種見学

※見学会終了後、有志にて懇親会を予定しておりますので、あわせてご参加下さい。

参加費 見学会及び祝賀会ともに無料

定員 30名(申込先着順)

申込期日 平成28年1月21日(木)まで

主催 (一社)奈良県建築士会 青年委員会

●知って得する住まいの設備講座

住宅設備の購入に際しての最新知識を知り快適・エコな暮らしを!

日時 平成28年2月20日(土)

場所 宇陀市榛原総合センター

内容 ・最近の住宅環境と設備の解説

・住宅設備に関するお悩み相談をします。

対象 一般の住民の皆様

参加費 無料

主催 (一社)奈良建築士会 宇陀支部

ご挨拶



この度12月1日より奈良県建築士会事務局でお世話になっております芹澤 玄と申します。

分からない事ばかりで皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、しっかり業務に取り組んで行きたいと思っておりますので何卒よろしくお願いいたします。

新入会員の紹介 『よろしく』

氏名	支部	〒	住所 (自宅)	勤務先
中島 数人	郡山	639-1058	大和郡山市矢田町947-3	大和ハウス工業(株)奈良支店

編集後記

昨年もっとも印象に残っていることは、旭化成建材に端を発した、杭打ちデータ改ざん及び、データ流用問題です。かつての、姉歯事件(構造計算書偽造問題)を思い出します。ただ、今回は個人の問題であったのが、今回は、業界全体に普及していくかもしれません、今後、この問題のせいで、杭打ち工事自体に不信感がより生じていくかもしれませんし、杭打ち工事に於いてデータ改ざんが確認できない物件については、市場から敬遠され、また、今まで以上の作業と時間が必要となり、建設費の高騰をまねくかも知れません。この問題は当分の間、建設業界に暗い影を落とすかも知れません。

このような状況の中改めて、本年が良い年であることをお祈りいたします。

(記・藤井靖彦)

Calendar

2016年1月

- 1(金)  元日
- 4(月) 事務局仕事始め
- 11(月)  成人の日
- 16(土) 近畿建築士会協議会青年部会 和歌山会議
- 17(日) 奈良県地域文化財建造物専門家スキルアップ講習会(第4回)
- 21(木) 奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会(奈良県文化会館)
- 27(水) 住宅無料相談会(奈良県建築士会館)
- 29(金) 新年大交歓会(奈良国立博物館地下レストラン)
- 31(日) 1、2級及び木造建築士合格者祝賀会

Calendar

2016年2月

- 11(木)  建国記念の日
- 20(土) 青年委員会 奈良の森と木と家のフェスタ(橿原イオンモール) 2/21まで
- 24(水) 平成27年度第4期定期講習(ホテルリガーレ春日野)
- 住宅無料相談会(奈良県建築士会館)

士會奈良

通巻605号

平成28年1月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 瀧上 徳光

編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会

印刷所 株式会社 明新社

重要なのは「今」の合格実績! 合格者数No.1の総合資格学院!!

平成26年 1級建築士 設計製図試験

奈良県の合格者の
7割以上は、
当学院の現役受講生でした。

奈良県
合格者占有率
74.3%

奈良県合格者 35名中、当学院現役受講生 26名

奈良県

合格者占有率
ストレート合格者占有率

No.1

奈良県ストレート合格者の
およそ8割は
当学院現役受講生でした!

奈良県ストレート
合格者占有率
77.8%

奈良県ストレート合格者18名中、当学院現役受講生14名

※学科・製図ストレート合格者とは、平成26年度1級建築士学科試験に合格し、平成26年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。※都道府県合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表による。平成26年12月18日現在

法定講習 一級・二級 建築士定期講習/管理建築士講習
第一種電気工事士定期講習/監理技術者講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習

法定講習サイト(検索)

開講講座 1級・2級 建築士/1級・2級 建築施工管理技士/1級・2級 土木施工管理技士
構造設計1級建築士/宅地建物取引士/インテリアコーディネーター



総合資格学院

学院長 岸 隆司

奈良校 TEL.0742-30-1511

<http://www.shikaku.co.jp>

総合資格

検索

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

Facebook 「総合資格 fb」で検索!